



竹内 滋泰
市政クラブ

持続可能な地域づくりと定住促進策

問 人口減少が進む中で、持続可能なまちづくりを実現するための市の総合的な方向性と、今後、重点的に取り組む施策について伺う。

答 既存事業の見直しや効率化を進めながら、第五次総合計画を柱として、持続可能な市政運営に取り組んでいく。合わせて、市民が幸せを実感し、一人一人が自分らしく、心身ともに健康で暮らせるイネープリングシティを推進するとともに、子育て世代のほか若年女性の移住定住につながる施策についても検討を進め、さらに選ばれるまちを目指していく。

育休取得促進策の導入について

問 市職員の育児休暇

取得率を伺う。

答 女性職員の取得率は100%となっており。男性職員も取得者は年々増加しており、令和6年度は73・3%となっている。

問 周囲で支える人達にも目を向けることが安心して育休を選べる環境づくりになると考える。育児休業者の業務をカバーする職員に「育休カバー手当」を導入する考えを伺う。

答 一宮市がこの3月議会会で条例改正案を提出したと聞いています。今後の状況等も注視しながら、職員が安心して育児休業を取得できる環境整備のあり方について検討していく。



第五次総合計画



松本 昌成
公明党市議員

自転車交通違反への安全対策について

問 本年4月から始まる青切符制度について市民へどのような広報・啓発をしているか。

答 蒲郡警察署など関係機関と連携し周知活動を行っている。各地区の交通安全推進協議会等への説明や協力依頼を行い、市内の交通安全キャンペーンや学校等にちらしを配布しているほか、市公式LINE等での周知も予定している。

ヤングケアラー支援について

問 切れ目ない支援の構築、個別支援計画の作成や継続的フォローアップをどうするか。

答 本市では、関係機関と連携した横断的な支援体制の中、子ども本人の意向や状況変化

に応じた柔軟な支援設計を重視している。引き続き継続的なフォローアップを実施していきたい。

トモイクシートの活用について

問 子育てや家庭支援の観点から、シートの利用にはどのような効果があると考えるか。

答 トモイクシートの活用により、パートナーがお互いの負担を分かち合い、平等に家事や子育てができる家庭が増えることは、本市が目指すジェンダー平等社会「多様な個性を生かした魅力のあるまち」の実現につながるものと考えている。



鈴木 貴晶
自由クラブ

学校におけるカスタマーハラスメントの対応

問 学校現場におけるカスタマーハラスメントが報告されている中、小中学校に録音機能付き電話機を早急に設置すべきだと思うが、市の考えを伺う。

答 録音機能付き電話機の導入は、カスタマーハラスメントの抑止や、事実確認のための有効な手段であると認識をしている。現在、導入に必要な費用の他に、市内小中学校の電話設備の状況や、録音データの管理方法等について調査を進めている。今後、個人情報保護の観点も踏まえつつ、他の事例も参考にしながら、導入可能性の検討を進めていく。

食品ロスの取組状況

問 「タベスケ」は、消費期限の近い食品をお店がアプリに出品し、購入希望者とマッチングする仕組みである。導入について、事業者にアンケートを行いニーズを確認してはどうか。

答 食品ロス対策に寄与する可能性があるだけでなく、商店街等の経済活性化にもつながることが考えられる。しかしながら、導入自治体から受取時間を守らない等のルールトラブルや食品衛生上の問題等の課題があると聞いている。総合的に考え、まずは市内店舗の利用意向の把握が重要であると考えている。

